

ゴザイハ 御座岩 能美郡岩本にあつて、一に天狗壁ともいふ。手取川に沿うた大岩壁であり、その麓に渡舟があつて、それを岩本の渡というた。

コサカ 小坂 鳳至郡猪平から宇加塚に赴く間の坂路。

コザカ 小坂 ↓ヲサカ 小坂(江沼)。

コサカタウゲ 小坂峠 鳳至郡川西から瀧田に越える峠の一つ。

コザカヤヤジ 古酒屋彌次 石川郡本吉に航海業兼呉服商を営んだ古酒屋五代彌左衛門は子がなかつたので、妻の先夫の子友三郎を肥前より迎へて嗣子とし、名を彌次と改めさせた。彌次は伊萬里で學んだ陶器を業とし、その百老・十六羅漢・七賢人等の圖は精巧と美麗とを以て賞讃せられ、又傍ら土焼の人形等をも作つて販賣した。父子共に狂歌を好み、養父を南壽の平太丸といひ、彌次も南壽の末成と稱した。天保十一年西南宮鷄馬の上梓した百人一首に彌次が陶器を描く像を載せてあり、其の頃の加賀國技藝番附には、東の大關大野辨吉、西の大關彌次とある。彌次に小鍋屋某・清水村某・寺井村庄七三人の高弟があつた。庄七は後の九谷庄三である。

コザキ 小岬 鳳至郡五十洲の部落西北の岬。

コサク 小作 藩政の時、小百姓又は頭振が、田地の高を多く有する者から借り受けて請作するものを小作と名づけた。親作に對する名義だから子作といふのが至當なわけであり、實際子作と書いたものも見える。

コサクジブギヨウ 小作事奉行 萬治二年

朝倉主馬の命ぜられたのがその始であらう。寛文元年に岡野彦左衛門・馬場小一郎、元祿元年に和田瀬兵衛が命ぜられて以來連綿し、員数は三人或は四人であつた。寶曆十三年六月專任を止め、内作事奉行から兼帯することになった。

コザハクエモン 小澤九右衛門 前田利常に仕へ、祿百五十石に至つた。その子も亦九右衛門といひ、百八十石に至り、組外に列し、元文四年五十四歳で歿した。後系相繼いで藩に仕へる。

コザハサブロベエ 小澤三郎兵衛 大聖寺藩臣。祖父覺治は丹羽長重の臣で、石川郡宮腰に浪人となつて居た。三郎兵衛寛永十七年新知七十石を以て前田利治に召出され、後百五十石に進んだが、萬治三年利治の卒後、遺骨を信州善光寺に出迎へ、同地淨土宗寛慶寺に入つて歿死した。時に四月二十七日、享年四十九。

ゴザブネフナウタシユウ 御座船舟歌集 二册。石川郡宮腰の船小屋に緊留してあつた加賀藩侯の乗船の唄を集めたもの。長唄は黃帝・誘春・當國等の四十八曲、小唄はさざ波・芳野山邊・暮木遣等の四十一曲がある。江戸の歌頭が延寶六年に召抱へられた時から傳はつたのであらう。

ゴサンジツセツズ 五十利圖 ↓シナゼンセツズシキ 支那神祕圖式。

コザンセンテキ 巨山泉滴 曹洞宗の僧。武藏の人。嫡宗田承に師事し、その寂後房州長安寺を領した。嘗て徳川秀忠の招に應じて登城説法したこともある。前田利常の金澤に天徳院を創めるに及び、泉滴を聘してその第

一代に居らしめた。寛永十八年十月廿五日示寂、時に八十一歳。

ゴサンブ 御算奉 御算用場奉行を略して書くときに使用せられる。御普請奉・定檢地奉などともいふが、御算奉と使用せられることが最も多い。 ↓ブ 奉。

ゴサンヨウバカクチヨウ 御算用場格帳 一册。御算用場勤方、御知行割、御收納米請拂、御鹽方、御代官割、御收納御算用方、御米破損船分算、御下行、路銀割符方、諸方算用方、御借銀等、凡べて御算用場の取扱に關する舊格を書集めたものである。

コシ 輿 藩に在つて人持組三千石以上の者は外出に輦輿を用ひたが、江戸では特に許された者の外は之に乗るを得なかつた。文久二年の改革以後乘輿に易へるに騎馬とすることゝなつた。

コシガクチ 越ヶ口 羽咋郡河内の内の小字。

コシカケイシ 懸懸石 鳳至郡輪島の輪島崎なる沖崎家の後庭にある。能登名跡志に、『町家の後に、昔此所に信田小太郎といふ人のさまよひ來りて、刀禰といふ者の方に仕へありしとて、其時の腰懸石なりとて、埒結廻しあり。脇によき清水あり。案ずるに、信多の三郎事にや。』と記する。 ↓シノダコタロウ 信田小太郎。

コジキ 乞食 藩政時代に、乞食は藤内・磯多とは異なるが、藤内頭の支配を受け、藤内中から命ぜられた非人頭の施設する非人小屋(藩施設の非人小屋とは異なる)に住居し、非人札を渡されてゐた。それを札持乞食といひ、然らずして橋下・葎陰などに散在するも

のを散乞食と稱した。 ↓ヒニン 非人。

ゴシキイケ 五色池 白山なる大汝岳の西南麓にある山湫で、その池水は往々にして渦する。

ゴシキイシ 五色石 鳳至郡輪島の天神崎より西方なる袖濱に波浪の爲打上げられる小圓礫で、水盤などに入れて愛玩する。その質は石英粗面岩・珪化木・瑪瑙等であり、色彩にも紋様にも變化がある。

ゴシキウメ 五色梅 河北郡木越の福千寺に在る二株の梅樹をいふ。享和二年同寺十四代林往の描きたる圖によれば、紅・淡紅・白・青・黄の五色を傳彩するが、青色のものは未だ見たことがなく、稀に淡黄のものもあるといふ。併し多くは白花を着けた枝に、紅色又は淡紅色のものを着けるのが普通である。

ゴシキガハマ 五色濱 白山市、瀬登山路の蛇塚と、砂防道路の黒ボコ岩との間の地をいひこの方面に於けるお花島の中央を占める。

ゴジキゲンオホエガキ 御直言覺書 享保五年定番頭藤田安勝が前田利常の言行を録して綱紀に上進したもの。安勝は幼時利常の側小將であつたのである。

コシキジマ 鰐島 鹿島郡能登島なる佐波の南方にある島。

コシキジマ 鰐島 鳳至郡の海上に在る七つ島の一つ。享保の書上に、『こしき島、高さ十三間程、長さ四十間程、幅十二間程。島之内よもぎ・かや生申候。あらみこ島より海上七町程。』とある。輪島海士はこしき島を鳥帽子島と呼んでゐる。

コジキシヨウガツ 乞食正月 ↓ハツカシ